新沙石集　四　（正徳五年版）

椙山女学園大学デジタルライブラリー

椙山女学園大学図書館

新沙石集

ひらがな

四

新選沙石集　第四目録

聖徳太子の事
墨書法師の事　付観音の事
恵心院源信僧都の事
満足する者鐵鬼なる事
慳貪女の事
江州坂下のやどりの事
賢とぬく男の事
龍の獲の恵　ぐくりん貧こくの事
西域のたくりんひらどるの事

新選沙石集 第四

聖徳太子の事

和云豊聡耳法大王聖徳太子とは。人皇三十二代用明天皇の皇子也。母は間人穴太部の皇女なり。推古天皇の世に成て居て摂政と称し。天皇の[illegible]と仏法とを[illegible]つよ皇憲と制定て。その用明いわれつよ抑用廣庭天皇第四の皇子也。母の豊日[illegible]と。欽明天皇三十一年正月朔穴太部皇女ゆめに西方より金色の僧さらてをれよ教世の願わらといひて。ぐちの中よりとび入と見そなひて。はどろきて皇子よかうろよ豊

日のはるかなるくもゐにむかふるごとく雲人と坐ん
とゝろこそゝろ懐妊わらべ胎のわらべ十二ケ月也
敏達天皇二年正月一日妃茅宅と出行し厩戸
よりいでたまふと誕生わらべ厩戸の皇子と
号奉ぬ時に金色のひかりさして文中
炬燭ちりぬるごとく考ふるに秋夫強を増嚴隙
特明惟性ゆゑにひとりたまふ二歳の比時二月十又日に
しめて東ゆ向ひて南に仏とをがみ給ふ
ざれりとうづくひらきゆまへ白色の仏舎利
わらべの法隆寺の舎利ぬるべ歳ゆ学
よべくるこの国と読しかるに来朝のゆえ

六年の冬十月百済ゆりの流論并律師禅師尼
もしめてきたるべ八歳の時新羅ゆり仏像と経
をたまふのいく西国の重人たちやう年尼仏の貴
像ゆり来世ゆまれとそれ年ばいまざりひとへ福代
かつひとつとゝ十二歳の七月百済ゆり日羅上人来
て伊ゆりひとりとゝのちたまふとらいたまひていく
敬礼敬世観音像仏燈を方栗敬まとゝたまふ又眉
間ゆりひとりとゝのつゝ約日のごゝたまふ十又の法
時用物用位ゆり法二年ゆりたまふ年十六乃時
四月ゆ又用明天皇崩しゆまりゆやたまふ群臣
百寮三寶ゆ協とへさ旨と奏したまふゝ物

部の守屋大臣中臣連勝海連おほむらじ物部とそむ
ひく。佛乃神とうやまふべしといひて。佛法とほろぼ
さんとしくたる。守屋大連と。蘇我馬子宿禰とを
どもとして。泊瀬部の皇子を平部神平蔦
臣。河内国志紀郡。渋川といふ所。軍兵をあつむ。守
屋大臣。稲村の城をとりまくぐんぜい。強勝なりぬ
る。天王。顛絶して。秋風とぶ。ひりみぢのみのをと
しわやまりぬ。白みちを。煙くもるゆくちさ
て。矢を雨のごとくに。乃のひらりとふるこの官
軍。三たびもりぞくぐの。厨戸の皇子。立願をは
らぶんい。敬をもちがうしと。勝軍をとりてこう

こう。四天王の像を。ぬりさして。願上を。玉敷部。
同じ。我して。敬をかうしめなまんとなり。後四天
のはたをよ。寺をつくりなんとそくる。子の大臣同
おもひ。ちひ。紙をそぐをよ。そくこそわひ。そくかの
その矢。そくをよこれて。玉敷をよわひ。ひ。平玉
ひとちくして。変のりをよ。ものうぢ。厨王。守屋
大臣。楼ぬの上。会をのぼりて。氏神物部守屋
大神の矢。といひてをつ。その矢。太子の。汚濫を中
厨戸皇子。舎人逢見市尾を。命して。四天王の汚
矢。といひをつ。のちの矢。ぬくをつて。守屋脳
をわりて。楼ぬをつ。ぬさ。ぬをつ。我願をぬ。

満宿禰又足とうの人と云て。小膳たるつとしらく
りり屋ごくびとさうたるこまれと又人なりひて如我昔
所願今云已満足しいひ寺。寺屋ゞ軍たちまち
よ御ゝれ。宮軍大連ゝ家よ入つそのちたるいい四
天王寺とつくり。蘇我大臣興厳寺とそう。用明前
御ゝ。ふ滋天下とはさめ行ふゝ多ゝ年。その年歓
明天皇の女敏達天皇の后豊御食炊屋姫
と云と二十六年ゝれと推古天皇とやと。厩戸皇子
と皇太子とそいよ天命ゝ居して方機とくゝ
位者云る因化ゝるのひ。ゝと改速として太子年ゝ
大臣ゝ話ゝて三寶と興隆せしめたの約家議

て堂舎仏像とつくり。純中太子父用明年ゝ世こ
の天皇のためゝ法隆寺学門寺ゝの七伽藍とた
ゝ推古天皇十二年太子三十三乃治年憲法十
七ケ條と製しられと奏しゝ。天皇太子こ
こびゝて。同十四年丙寅天皇太子ゝ話ゝて
く勝鬘経と講ゝ行へとのくまこの
時太子ゝ年三十六ゝ。ゝ行ゝのゝ講法二十日
ゝとゝ。ゝ三人の蓮花ゝ。ゝ三四人の
化ゝふりたりて。ゝ天皇厳階ゝ
の舎ゝとゝつくゝ。ゝのゝりんゝ
かくゝけゝそくゝその化ゝ寺ゝとその。ゝの橋寺也。

同十八年丁卯、右子先生のは拾遺南岳衡山殷君
墓誌わり。妹子大師と云へるひてはつくひらして殷系
しそりしよ。学の法花経と沉の箱よへらたた
子見と法覚じていまこ開ざるいくらの法い利
益ふ。此先生は同明僧のしそし法るりそり故い墓
石ひ金の金文字と。歓喜赤首有の有は文
字とりの僧居眠して燒そりしも開てみて
と作こ也しいひらいてえるりたづいて我法花べ
夢敵ふ七日は籠りわりて青龍車ふ乗して又百
人とそこへ前が衡山ふいこりひしの山巌窟ふ
してさりうひてくらせ。ひまひこりしも同廿一

年癸酉右子四十二は業しの間也石川の郡科長
山のふりと墓石ひ乃ひりと見ひて。法華文字ふ書
法りるさりふ生。雲大師飢人のうひ乞せと現して。
仏器山の麓ふ仏を。余人見とそこへさりけるふ。弱飢
ふそもりてそこへまたたる敵とくへ人ものへ。
そるるふりさりそ。そこもりの。対ふ左子こそりの人乃わ
ふ飢人叫とみんそこへひてるりがりの人乃わ
ふ。あゆこりて。法てわれ山へしく。法為人ぞ。
そるいち紫の浄衣と脱てそこへ。唐和尚と称ふ
科姫邪仏器山の飯ふ飢而叫せる。猿人衰祖ふ
こそ。飢人前とはさて奇と賜らこへて

怒嗔ふく面ゐ川ふく縁右社吾まふ沖名ゑ忘目
の仏人の面顔美相ゐてつるの人仁仏ぞ見とひら
くゐうちゐ金色のひらわりそろ身ちのいぶ番
ゐりゐ人のちく面わゐぞ仏人とたちとわひうちた
ちゐる教千云人ちれとゐるるのゑ仏ゐ
まひてのらつゐとはゐてみせゐ仏人ちゑ
ちせらは使らのゐとゐ時ゐたちわれ活ひて
人とゐりて墓とたゐつり墓煙だ活るちたまま
おのいくたちい貴く仏人いやゐ仏ゐるゐら
ゐりてわひうちゐ保教也仏そ死ちゐとびと
て京墓ゐんやとそゐつゐ字らたちのいく

ちんちおちやく仏器山ゐゆちて墓とひらいて見
つへゐとちゐ七人の大まおゆちく瘡と解て見ゐ
その屍わるるゐ仏ゐふいぐ番ゐ衣裳瘡の
ゐゐ重大まおれとゐん大ゐわやゐとたちて平
思儀ゐ煙ゐりへらまゐりてけゐゐとやちた
勉ゐゐ意ちちゐつゐその弟と頭ゐたへり舎
人個使地とゐりてそ衣裳とちりゐ七これと
あちゐ仏事りゐのちく柳薄伽梵教ゐ空恵の
二わり豆別い豆摩ゐとたちとい空面の二聖ちり
おれゐり吾釈の仏法始ちりゐとちて
曇摩法師の事付観源のゐ

漢云曇鸞法師いたつてめでたき聖人也一切法中
に無碍とはこれをいふ頌にいはく
ま部まで つくりひとでに 国くに鬼 滝に成り
ちりぬれば 頌にいはく
いのちながらんなりよ 他力源といふ他人よそ
わひて他力と他今ちりの他人命い一千七百歳也げ去
の他法十悪つくりぬ
うつゆきわたり曇鸞のいたく仏法の中に長
不死の術法乃至宇宙我命と西る業とうう他法と
はそりたくその他法と二義にはんをめまんいこ義
被見して去るのげたそくふこみ他ぐんこれ

いうんがといふ
うり観法とうりかしていふやしいその他法に長生
不死法わりも他者の術つくるのいどんくくわく乃
ゆつくしこ界有為法ある他也おれとのこふ
い魚鹿の如極流猪のりくひるり法こ一なぐ生
死とちるれ不生不滅と仏性楽不退の位とるり
ちるとやうとこのごく利益ちる法いおれそわれ
とそこの観音菩薩とわこんりう曇鸞おれ
乃こく魚鹿とさんけしてそのいち十悪その他法とが
秘ま一焼きてもやうとりんこうりそりこう
香呂とうけて西と西ふ会体しまるりら余とり

けり時に雲中にとんぐく音ありてきこえけるが須臾にして去りぬ是より浄土宗の元祖の初ともいふべし四雲寺道禅菩薩恵慧小康也

恵心院源信僧都の事

和尚恵心のそうづとハ俗姓ハト部氏大和国葛木の下郡乃人なり父をば卜部正親といふ母ハ清原の氏也。その父母男子なくして高尾寺と云ふ所の観音に三ヶ年の日参して祈請せられけるに夢のつげふかき僧たちあつて一顆の光明ある玉をあたへ給ふと見て懐妊せり九月満じて誕生して男子なりうまれ利智の目精瞼にとして弁説の口輔備く

其より阿孃抱持養育せらるゝに此子七歳の春父うせ給ひぬれどもかけそなけるがものいはんとき抱と貴人にまたくまさりて法師になるべし学文させ父母の願菩提をもとぶらへしといひ置て死せられけるのち此小児父のいひをきしことばの末をおもひつゝかの高尾の観音堂にまいられけるに紙父のいひたりしなれハ処にやされハさぶめて父の遺誡しのびて座席なるらんと思ひなさばかやうにもしいふか時に小児をつかへ夢想をかうむりての寺乃源蓮にあづけけるに大にわきまへる鏡とおぼしくりたる鏡と二面あり。鏡をとりていくしかみてくらべける鏡ハ

[illegible]とわくらびてうせぬとおもひつるのち[illegible]
巖山のうちのひら樋川の水のうへ[illegible]へしとゑ
ぬまとみしかくさるけまいぢうと母のうちなんと
い恩厚恩愛の衣裳乃涙と首摺巖の法水のみづ
を[illegible]法[illegible]乃[illegible]の[illegible]実相平[illegible]乃[illegible]上よりく
やく[illegible]夢のうちに母上のうへにひろ[illegible]
巖山のうち大畑の沢[illegible]の程のかしひけるびけ
[illegible]と法[illegible]のたのうちとみてく我山乃[illegible]
[illegible]のはずみのうへ[illegible]ぬまんとちうとて母のわ
うしやうわりけまびとのうち山門のんとのがせられ
[illegible]ひとをめんとびくしなるよ母上おもへ

ひとひてのうまひけるいんへの親乃[illegible]
[illegible]たとんとよりけまたかんあいの[illegible]
[illegible]ばらしいばら二法いんへの[illegible]
く学問といて二天の者ともうまきなり百人
の徒[illegible]ものんへいかわりしまひてうつ
ゆるさびしてちうまりのうへ[illegible]
ばしてわるまし親子のひうびられとうぞりとも
しいひとてるうとうとまうしてうとれまひけるお
人い恵舎を朝ちのうしてうのうとうとまうしたほ
ものへいばんへ人数の力をいよいうとうすてみるのう
よびしもびけるうくてひろい山のうちのうを大[illegible]

正一偈しゐまへい利根聰敏の相しるしるこびあり
てそのかたち学問させたまひよ一ぜん千悟ゆうして弾論
の奥旨とさとりをえ会三千のひとびとうそのあとを
せりせ十三業みつてゆ多しゐ恵心院の法眼とぞ申
けり一代の八教の流とりけぶ三密又智の像とつくれが
の恵果くれていつくしうまとて青龍寺の月蒼くぬ
つぶ玄奘さとりてうらんぶ法眼の霊流ぶ法ぶ
はせいとて恵心一人のこぶつくる村上天皇の御時
天暦十年六月廿一日清涼殿にゆひくく又日十五の
御八講わりけるぶの恵心の音流と一天の君をと
しゐて紫衣授正しちくして仏乃小僧とあひ

ぶくして紫衣わり今度の八講と勅ひせらるへしと
ゆまけきい僧正面目とかぶくしてあひぶくして紫衣を。
いまぶ十三ぶりぬまひけきぶそのしるぶん所聴法
をるたんのしるかひしてしるぶくしてぶそんちうとそのへて
法服しゐ金銀とちらぶて番話とせり水橋のぶの
ちとしるぶ元しのかりうへくぶそのさぶくさひく
ゆ鷲山の主問流堂して一代聖教の法集乃対一千
の天竺所流の中しなるんをるたんと導師として大衆
ゆ乃をる元しのかり如是我聞とさとりあひひろん
わりさあるいぶでうられしゆるうへ。びんがの工夫風
聞の雲しひぐぎ大会状名しゆ物と後しへ文判ア

[illegible]と云ひしが、舎利弗の智水浪清して菊橘那乃
[illegible]ありひわさやうりつぼまごるこうしたりなり
[illegible]ぞうこ者呂宿と偈頌の[illegible]れつぞれり
[illegible]ん偈頌しやされ[illegible]八海弘願の[illegible]白川の[illegible]
[illegible]ぞうこ母のたるもこぶしうけきばかりうらぶ
秋山寺へのぼりしてめ学[illegible]一天の者ども
[illegible]しなりし対面わるさしなりその
[illegible]ぞうこ[illegible]の評[illegible]母[illegible]
てしらそくかりけるぞうこ[illegible]文とうき[illegible]
の法衣[illegible]して大和[illegible]四[illegible]
[illegible]ぞうこ[illegible]

[illegible]けるぞうこ[illegible]
[illegible]ぞうこ[illegible]
[illegible]ぞうこ[illegible]
[illegible]ぞうこ[illegible]
[illegible]ぞうこ[illegible]
[illegible]ぞうこ[illegible]
[illegible]ぞうこ[illegible]
[illegible]ぞうこ[illegible]
[illegible]ぞうこ[illegible]
[illegible]ぞうこ[illegible]

三千一会の月とともに、一切衆生の家乃ことゝ、一条
寶積乃霊さとし。一切衆七千余人を教化しまつるよ
ケ家のりつくして十二年の春ちづ伊勢右衛門さまひと
七日こゝろ法せがごいとのゝ上さまけつこ。満散の和
の沖めよ神奈乃沖戸開貴女一人出まつしくて来代
乃ちるしやう出詠乃要道とそこがめるるわれば法
法仏と会ぜしとそこ山へさまとなりしまつひ神
和ようして一切法の中ちう法生要集撰集しく
三ぢとこ法人乃法生とそこめまつしの要集此
廣ちよう法したまつ家朝の天ゝ三ぢりそしめて
貴法乃信男女まつでかう要集となるこそるやう。

月の六祈ようい貴賤道信わつまらてひ女どちや
りんちろ河とめく月なりひ面法源信如来しと
のへて三度伏おそといつさろ行ようい信弥陀こて四十二
条の河中貴下向しあまひけつがおちうようの
母乃ゑしさて大和の国とまりりおの雲のドこて
そ我母の法屋をさそこるくめと思し我は光ゝ
二人わひそして西法なとちう花浴とちうてつま
だ和田山ようう宇ようつりを秋のくれるのれいこう
てだようさうひ夜のこゝろと家とけしそひて神の
河面ようれやらだう浴の平お院へまつであまつひ
けつよ。山浴の康河道乃浪よとこそまつく声

そこ[illegible]ふ良のみやこまへつぜだちとさんけいをてかづく爰のトろこりのれて　ちくなりけるよ。
ぼくよ母はおのれ使よ山へまいりけるト男清みとさげて見もやよわのこけるが俗旅とみるけまち母はぜんり清百姓よこれくそくいす急ざまこりひよこれてわひたくまつるのうまてさよわりこりけるれ摂津かとしてれ文とまち俗旅い老母の方死一生の音信とさて文ぜよまえかづくひらいてみるよわさりびあつれうー絶へあまひけるとこ二人のれ実なのこぜれかさへ海くもてめやているー生もいこぎあまふれ心のうちこ

そうのけまこふるさとの四宅よいこうれ孫へいこ秀こうよこれく彩秋久日乃ち菊ち百草ちくをれのち孫菊ちづくよ繁霜のれよ用こうれるやまみがひよーこうりそうわりさ西表清漁父が桃源よいこうよ蜜晨沉放筆がふーこうこうこうよ仰こうち母上ちそうづと泊はあまひてのこまひけるハ親子のひけび雪ぐけまこハ病家の稼らうて元と言れ孫こふるやれ世の老衰いけるよとこぐぐでよ四十よわるれの老僧とかうれ孫こうそそうのけまこのまそでうねよ見系かうーるれ俗ようこまよかりめーはらん対面の約とハ見こうこうへーとうよれ無ち

よ書きたりしいさいでつたんぞうのぜんちもさのためなりぬまでよその時なり。会伝の声ちり所より余のこしいとまもしへ西ちそ。伝の相好ちり他のちよ心とうちうちうきく知識よわんりぬまへ浄土ふはへしそそぐ西よりひてもと合てナ会みどれでとそのへ人ぬまへいそうづも看病のんもたよ会佛ち称名十遍わまりよとちびて行ちるごく寛和元年九月十八日の酉の時よ八年七十ちく乗絶ぬまちり。海ちよ巌宇なのうきうじやうん人なげきの中ちひろひられを僧邪七業の時よられしちり四十二ちくはしめて対面わしるられば

ぬこちわちさはくそくわられるり親子の徒遺ふ一寝の夢のごくられ。富源の行ちくめさよ老老ちりしナ会成就の合掌ち仏とるく絵ふ玄海はちうんとせりぬでよ七日ぬれいるとちるこちかしけきいその骨しくびよちけひろい山よ撃のぬつちくぬさめちてまちつくきけちこそわちくけきして生よこそ母よとちるの源うちくそちさめてもぐらくよまちうしやちくの行へ。我ちるちくでじやちどちよ性生して九品土のよ母とんこそまちつ縁起の浄法とちよ空へしそくぬちうじやちの浄とちくちくぬちつねよ長和二年六月十日御業七十六ちてちうちう茶毘の

かゝるよしもひ又色の糸とひく入て花嚴經の偈に清
浄慈門刹塵数といふ文と面善円浄如満月といふ
文と吟唱し禅定に入がごとく入滅し給ひけると
満足する者餓鬼道とみえたる
梵日佛出世にて證果の羅漢ありて満足するものといふお
ほ河海辺にゆくひとりの餓鬼とみえたりそのすがた
きたなくして一中自くちよりつゝみに火炎をはく。
まなこより血をあふぐまさるなたとへやうなし云猿又
体のなりのとあさる二三丈也。辰月のごとく瓷
猛火あそり炎々としてあわげさけぶ声は百千乃
雷のかなしぶるよりしてまで飢渇し留ぬりは

まよひて苦悩せらるゝ者あれどもさりていかゞく行ぬらち
先生よりなるかいだうとつくるゆへに此生をうく
苦をうくるや。餓鬼ありていはく我むかし法花経一句
抄ちの比丘ありしと云ししかるに此苦をうくる也。
我むかしのるすのむくひて一日に千度剣刃のいで
舌をきりさけ足をひろかし。我ごとくなるもの我わくご
うの苦を閻浮提にしてわるくもんはりよしと語し
ぬまん我餓鬼の身をうけしものゝは億千劫の間
いまだ一滴の水をえて喉をうるほさずといはんや
飲食の名字をいかでかきくことをえむや。此寿命
をかりてはいふべきまでもなくすなはち無量百千劫

是に信ずる大苦患にあふべしとそのこゝにいたく
大に泣さけびて悶絶して地にふせるを大山王
の縛頸をつかでてくしして閻魔となり又餓鬼と成
るを業をあさてくして冤罪となれど見金層をもつて
以人にも眼より患となり佛法をそしりしと以人ども
呼とさしまで罷場きは也と一句と指さる呵責なる
然るを彼くのごとし大窮の中にそあけて三宝誹
謗といふくいましめるまひけるとありと云々

慳貪女の事

梵国佛在世に一人の女あり長者わり心操慳貪にし
て財寶をもちながら威儀放逸にして佛法をそし

つねに云けるはかくしてこそ波羅蜜を修し四徳をも
後四弘誓願をもおこさめ世の人これは慳貪女と名
づけゝりつねに餅ともちをもて人にくれ屏風の中
にひとり居てこれは喫をする時頻に塵をかぶる
化人がためにさんざん女が家にいたり陀
羅なまに女のいひくはやうきを今ぞきりのかしとそ屏風
の中にいる者のいふくその食ひ餅をあたへと
餓りて日中までたちわびけるにわれ人とはいかく
和僧今日とくに私にかまくな云ともかいし数日
をふるとももちの一つもあたふまじわかへらしめ
不當の僧かなといふに者なかまでそ云餅をと祐ば

やどいりうんぬうぐでといふ女のいりたるひ和侍
てしてあるとてとわるとわるまーと云
るえさしーびあるとあしとそのうちはたよ
はうるあれい和歌腦脂烟懐していさきさる服
のーそうそとそとそとべーといひとん三三人きさう
て前一縄とつけてひけどうごうでそでいりさで
と心はナ人ナ人ないースとナ人わうまりてひけ
どうごうごーしるの。羅鶏短廻蚤一九万里の拷問
とりりしー并性の侠心ちちちー三千人の激浪ーー
ーふわうんうんうんいられい体分ようー頻頭盧とて大祇
也双角の性海ーいうとうるの四畧のり性ー候。

童如の月度よいつるよ三密のり楽と説くと説
うんどんのんといまーめんどたのの坂よ千万人カと
合てといさとひきうーしうのんのうーどいりーー女
房ーうてもうーうんとい。悋貪女鼻とわうえくく
まうーりーよ之ーうて餅とまうーうーちんまうーうあ
まんーといへいやどていきあうひぬえっわう餅と二つくう
ちんーとうひく祈ーよへけう行ーうちうどつーるりて
うあまんへ。女ーとうのうーんと祈とのーーむうるんつーく
ひうて餅ーようづされありけ豊へその祈女ひひこいよ
わうーうてていれうーうーわうきうるうきうまうりのーその時
豊とうのーめどうるの代つーとい悔ーで。祈ーどくいるん

ものもちゐるもの　おほへ入るのごとしもんとい
ぶの云我力をいるのらば佛面へまうでゆへ
仏面へまうづるよ面あり車よ七珠万寶と積
てまうゆくやうきんうりかるのへうりんへわうり
きといへ若惡のそんでゆへゆやとへのごく
佛面へいうたちまちよ烏瑟明新と者。好ゆ惡惡
二貪心とうめうりたれがたるよ流浪したふ佛
よ陥して後果はせとうく

別場ての新乃事

和云中比巡礼の恵よ一面不信の新わう行住座臥
二六時中乃ろしふ場てとのくらいけまバ惡人場て

のいきかとのづくさもろ滅乃ん云ふ仏人ものを
はれたりしりのとそわうへけるそのうやうて
のむしわうこ人のいきかうのうてまうじやう子
へしと佛ゆ面みして夢しに乃けうんのたうしるる
まうりのきかいりの中よ入へみまいうへもわうしの
私のくさ重身も稼の草雲と常そうまうの村
時乃新薬の月法りんゆの薬野花の味乃戸佛石
居士乃丈立までいりひ面うまてわられうされ新の
行儀と乃うよ子のてまざうしうて心とて迷
て頃しひしてお行うりとのぞくけうも世ご人の四
我かへうぢそのの日乃そ河よ孤ふまうじやうとへき

と夢覚わりてはじめてこそ
あるらくるるの法とやうなるしかるの四我さうに別
の法の一心ちうしてこの法わり居しいるもの
飢えうの時鰹鬼乃の苦とやうしの面りて居てしいこと
樊よりなりしも氷ちうそ生ゆ法家の後
ひとと焦きんちごの苦とうるるくうごしも
ろくの苦ちわごしもよ居る恵乃と思れ味と
食ちの時い天の苦寄これ居るくと観しり
もされうる色と見物るしもとて香じ香と
つぐるのいし楽ちわ時もこれい物のそちうちぶい
のちぐらくちうとのちやうごん居乃ると観

して世るの苦ちよ統らしたとそやけっこ人ひるとと
さてるうぐと落しぬ掌と合てそ去りけり

髪とめく男の事

梵四ちし一人の居わり年おるるく白髪まもし
まちこれよ二人乃妻わりひとりい一人ちう老そ
ひとりい又ちうるうちうるけ男老婆がも
とりけうちうよ婆の四我い年老ちうひうこうさて
前ふ言といてうさぬんぐいはもぐさうんなれいさう
ち白髪かし我と妻しちうんとはをりぐぬんぢぐく
ろさううと揺ちて我とけりしくなよ白髪ちし
めしさてうそ双そうんもうちうしめしいぬん

さてはりけまいぞ。書がこしばしまつべかりけるぞ。くろき髪と
ぬきて白がとのことをりぞ又まつとき書のりてよゆきた
きいぞ我年ふるし雲の髪のまぶ変せひぞのんぢいさ
ものこ霜雪と成してくろきくこそ。書男とこいんも
人目もはんぐるこ我はまちろきこと思ひ白髪とぬ
きてまつときそぐこ。ものこしめこいぞまこれも
るこくこ。ゆうえて又白髪とぬきてもくこ白髪と面
よめら。青髪とまつり。逝まらぞう行こくろき髪
いんこ。接白髪いまぬきてそんこ。ゆこくろ。
小婦きこひて回世のゆこくるいらまぶ。ぞんそい
くるくもぐぞやこらんりのとぐぐ男こも歩ひ

へこといひて逝ぬこけまいぞせんくるこのこらくこ
こうかとさこくこして老婦がりこゆきあ婦が回
ひとい墨うかといくこてそこそこ引のけ見れに課人
逝と新新許也捨新閑芝僑くきこくこわれ紙さ
ぞ。老婦ゆこくきそわかぞんくこ。ゆそくこやと
て。逝去りあ婦こきこくこれ紙も人目もくこ
窓のこ。こ涙かこくこりけこぞうにしてせとこくこと
こうかぐこ養命とゆきもくこ回三髪こたこのこ
いのこ。流と立てかくとこくこやうまてここ又福こまきされ
かいかのここいかくて新化きんとゆりひ立こくこぶたき
笑こよい笑早の髪こわこ流き宮こい法水の新わりと

はるひ自の面にてこれば羅田池と開ぬ四又日を
出い水の間なり。昔よりて水のたまりわるとは
これい日数をしく早ひのち霖雨自と源て法水
昔より満てわしとうくるのどれめれいちくとつくして疲
ぶ。ものやうより雨降いるの日照い昔より
いうづより春を愛さけぬくて生涯くしめれい
ちくしやうの雑とうけてだしとのうだと生れてもい一
節なのしに智因ひまり。一のたほと愛ぐて東西
人里わて中しも生れて。彩のそうり東の里より立
時いらのとめぐりわそびて東ないうん湖いたくぞも
その食いまぐ出来ぐまちらず西の里より立

しとわをいさらそしてそうして又ほとめぐりてあ
そいまぐ出来ぐまちらあるゆくかどこほ
の中ようかつさそしのくなのれうせ宗りぐく
ろくくんはりさりのいとせ世せまうのりるも
雑喉浄くく律美相ようんくうり
神撰名所記歌書園の事
漢云隋の開皇年中に神乃撰名所記とこの一生
に不退ろくくるとなしよて。ほ関仏の像と図とろこ
と一千作。又同像とつくること一十二作長三尺の立
像なり伝心とりはくくりみて感宜と祈精。茶ぐと
いくくに真如とうけぐせり。夢に二人の像さくれり。

一人いそぐ〳〵日さんと称し。一人いそぐ〳〵長寿と
称をなんぢ此岡仏の化縁とをもひやあるべき相応
の三人の信歓喜して日若ばなんぢ濁悪中にはつ
くべし岡如来の仏法をもつて一生の中にはひてゆる
らば不退の位おのへ歓喜あり生死をとはんとさ
めていそぐ〳〵相念をもつてうたがひ疑ひていく
叡歓喜岡にはうこゝやもとそく
恵光大師夢に不死の薬服をもつて
和云天長十年癸亥仁和尚に四十年をもつて身つゝれ
まるこゝろをもつてめちたへしうさるとをもつて
しるしひろい山のふかい岡とそゝぐ称の端居ゆきを

絶間に端居し給ふ今の前僧厳院是なり。二徳秘
密の義裏八葉の心蓮と号へ一心蓮の乃塵に八十
余乃如法と称し二十年のうちその心と流桜をもつて如法
に法花経代書写し并に四種三昧と称し妙楽の
法信ふかくして三千一会のごとく化縁へのまの仏法ゆくい
をもつて和歌に天乃薬と称してその并に称流のと
并に行と喫してその味蜜のごとしかくいくつ人わり
くをもつて云これいを三十三天の不死乃如薬なり
ゆめさめてはのうち除疫乃如なるべわりこゝをもつて
に夢の味にしてるるこゝをもつてちやう面く日月沈
沈て面くかわり。眼頭乃ろこと明也をもつて石蓮

第七りてゆづりてこれを法華一部と書写せ
しめたまふ法華一部とりてくゆ搭より出さる堂中に安
置してのち叡山にゆきとどまりて所願元年四月二日
寂六十一にして天台座主に付て法山十一年貞観
四年八月十四日六十一寂みしてへ
滅し給ふ同八年七月十二日伝教大師と同時に宣
下わりて法師と贈号大師と諡せ也
西域のたぐいまれなるひとりとなるのみ
梵四ひしり西域にひとりのもりんわりぶしらひ
りとなるも実想論にして霊映明にまさるへ
ふれとわやしてひの法漢よりみ。ひらりん因源と
をもちいたへ定法をもて宿住の家ひろうへよいぶ神通の
用をもて教賊の窓中よりへ解脱の風をづくのりぶ
ひあるくりの家よりいりぶるひりとんていく
宿命海門ひしりとりて涅槃法よりれ
因源とりくるりぶんち来末仏号況也
とをづくしをく

新選沙石集四終